



竹田青嗣『欲望論』をめぐって

講演とパネルディスカッション

—「普遍暴力」の原理に対抗する「原理」
の創出のための言語ゲーム—

講師：竹田青嗣(早稲田大学)

パネリスト：

細川英雄 (言語文化教育研究所八ヶ岳アカデメイア)

西口光一(大阪大学)

2018年1月30日 (火)

18:00~20:00

早稲田大学早稲田キャンパス22号館
715教室

定員：30名 (定員になり次第、申込締切)

参加費：1,000円 (事前申込制)

参加申込・お問い合わせ：monthly@alce.jp

※ご参加される方は事前に以下の文献をお読みになることをお勧めします。

- ・竹田青嗣 (2017) 『欲望論 第1巻—「意味」の原理論—』
- ・竹田青嗣 (2017) 『欲望論 第2巻—「価値」の原理論—』
(以上、ともに講談社)



企画主旨

前半は哲学者、竹田青嗣氏が2017年10月に出版した主著『欲望論』をめぐって講演します。『欲望論』は、人間社会の人的価値をすべて無化する「戦争の原理」「普遍暴力の原理」に対抗するための原理として、竹田氏が構想した哲学の集大成です。信念対立を克服し、いかに戦争を回避するか。「普遍戦争」と「普遍競合」の「現実論理」に根本的に対抗するため、氏は「意味」の原理と「価値」の原理を問い直し、欲望と価値の哲学を打ち立てました。そしてそのことによって、形而上的独断論や懐疑論＝相対主義を終焉させ、人間の本質的自由の条件である理性の集会的探求としての「言語ゲーム」の本義の再生を目指します。

本講演は、ウィトゲンシュタインが提出した言語の本質とは何かという問題から出発する竹田氏の言語ゲーム論を中心に、言語を用いて共通理解を生み出していくための哲学原理としての「欲望論」に焦点を当てます。後半は、それを承けて、細川英雄氏と西口光一氏が、「欲望論」を日本語教育の分野におけるそれぞれの問題意識に引き寄せつつ、パネルディスカッションという形で討論します。

どのような社会を構想すべきなのか。それにはどのような哲学原理が必要なのか。そして、ことばの教育に携わる者は、そのような社会の構想に向けてどのような問題意識を持ち、どのように行動すべきなのか。今こそ、方法論に先立つ「意味」と「価値」を問う「ことばの教育」の哲学原理が必要である、という企画者の認識から、本企画を企画しました。ぜひ、この刺激的な議論にご参加ください。

企画者：稲垣みどり（早稲田大学）

講師：竹田青嗣（早稲田大学）



早稲田大学国際教養学部教授。1947年大阪生まれ。在日韓国人二世。早稲田大学政治経済学部卒業。哲学者・文芸評論家。在日作家論から出発。文芸評論、思想評論とともに、実存論的な人間論を中心として哲学活動が続ける。大学では、哲学、現象学、現代思想などを担当。プラトン、ニーチェ、フッサール現象学を基礎として、哲学的思考の原理論としての欲望論哲学の集大成として『欲望論』（2017年10月）を刊行。主な著作：『自分を知るための哲学入門』『現代思想の冒険』『ニーチェ入門』（ちくま新書）、『現象学入門』（NHKブックス）、『言語的思考へ』『近代哲学再考』（径書房）、『竹田教授の哲学講義21講』（みやび出版）、『人間的自由の条件』（講談社学術文庫）、『超解読 はじめてのヘーゲル「精神現象学」』（西研と共著）、『超解読 はじめてのフッサール「現象学の理念」』（講談社現代新書）『プラトン入門』（ちくま学芸文庫）『哲学は資本主義を変えられるか』（角川ソフィア文庫）ほか多数。

パネリスト：細川英雄（言語文化教育研究所八ヶ岳アカデメイア）



言語文化教育研究所八ヶ岳アカデメイア主宰。言語文化教育研究学会代表理事。主な著書に『日本語教育は何をめざすか—言語文化活動の理論と実践—』（2002,明石書店）、『「ことばの市民」になる—言語文化教育学の思想と実践—』（2012,ココ出版）がある。

パネリスト：西口光一（大阪大学）



大阪大学国際教育交流センター教授。主な著書に『第二言語教育におけるバフチンの視点—第二言語教育学の基盤として—』（2013,くろしお出版）、『対話原理と第二言語の習得と教育—第二言語教育におけるバフチンのアプローチ—』（2016,くろしお出版）がある。